（仮称）印西市生涯学習ビジョン策定に向けた検討状況【概要版】 1/2

1. はじめに

元資料：P2

ビジョン策定に当たって設置した庁内ワーキンググループにおける
現時点での検討状況について説明します。

2. 論点の設定・今回の説明範囲

元資料：P3～P5

論点１（Why）
なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を再考する必要があるのか？
- 1-1 時代背景（一般論）
- 1-2 印西市の状況・課題

論点２（What）
印西市が目指す生涯学習・社会教育の姿とは？
- 2-1 定義と目的の違い
- 2-2 教育ビジョンとの関係
- 2-3 住民自治・地域コミュニティとの関係

論点３（How）
どのように目指す姿を実現するのか？
今後の検討

各論：公民館／図書館／文化芸術／文化財

今回のＷＧ検討・説明範囲は、主に論点１と論点２です。
論点３（How）については、今後、段階的に検討していきます。

3. 論点１（Why） なぜ今、生涯学習・社会教育を再考するのか

元資料：P21

社会の急速な変化を背景に、「学び」の重要性が高まるとともに、人々の関係性が希薄化していることから、生涯学習・社会教育の重要性が高まっています。

① 急速に変化する社会
- 人口減少・少子高齢化が進行
- AI・デジタル化の加速
- 気候変動や働き方の変化

② 生涯学び続ける必要性
- 人生が長くなる中で学ぶ機会がもっと重要性が増大
- 多世代により学びや地域に関わる時間の確保が難しい

③ 学びを介したつながりの再構築
- 地域コミュニティの希薄化
- 自然に集まる機会の減少
- 担い手不足・固定化の進行

④ 持続可能な仕組みの構築
- 福祉・教育・防災・交通等の課題が複雑化し、行政や一部の担い手だけでは対応しにくい
- 学びを人づくり・つながりづくり・地域での実践へ循環させる重要性

A) サブ論点 1-1 時代背景（一般論）

元資料：P10～P14

外的要因	人口減少・少子高齢化、AI・デジタル化の進展、グローバル化、気候変動・災害リスクの高まりなど、社会の不確実性が増大。
個人	人生100年時代、キャリアの多様化、働き方の変化により、一人ひとりが学び続けることの重要性が高まっている。
コミュニティ	地域のつながりの希薄化、価値観の多様化、自然に集う機会の減少により、コミュニティ機能が弱まっている。
社会全体	課題が複雑化・多様化し、行政だけでなく、市民・企業・団体等の協力による共創が不可欠となっている。

B) サブ論点 1-2 印西市の状況・課題

元資料：P17～P19

個人	• 生活の多文化により、学びや地域に関わる時間の確保が難しい。 • 学びの機会や情報が十分に届いていない人も存在する。 • 経験や意欲を生かす機会が限られている。
コミュニティ	• 地域のつながりの薄まり、自然に集う機会の減少が見られる。 • 担い手不足・固定化が進行し、活動の継続が難しい場面がある。 • 多様な団体や人材が存在する一方、連携や活動の可視化・情報共有が十分とは言えない。

（仮称）印西市生涯学習ビジョン策定に向けた検討状況【概要版】 2/2

4. 論点2（What） 印西市が目指す生涯学習・社会教育の姿とは

元資料：P33~P34

**個人が、主に他者との学びや関わりの中でウェルビーイングを高め、
そのウェルビーイングが地域コミュニティから社会全体へ広がっていく姿を目指します。**



生涯学習	生涯のあらゆる学び／学びを地域や社会に生かす
社会教育	「学び」を介して関係性を耕し、生涯学習の基盤をつくる

論点2の検討を深めるためのサブ論点

サブ論点 2-1 生涯学習と社会教育の定義・目的をどう考えるか？

元資料：P25~P26

- 生涯学習：子どもから高齢者まで、生涯のあらゆる時期に行う幅広い「学び」。自己学習も含む。
- 社会教育：学校教育、家庭教育を除き、社会で行われる教育。学びを通じて人々の関係性を「耕す」役割を持つ。
- 生涯学習はより広い概念であり、社会教育はその基盤を支える重要な営み。

サブ論点 2-2 教育ビジョンの理念等との関係をどう考えるか？

元資料：P28~P29

- 教育ビジョンの「ウェルビーイングの循環」という方向性は共通。
- こども・学校教育を中心とする考え方から、全世代・生涯を通じた学びへ広げて捉える。
- 学校教育で育まれる学ぶ楽しさや探究心を、生涯にわたる学びへつなげる。

サブ論点 2-3 住民自治・地域コミュニティとの関係をどう考えるか？

元資料：P31

- 社会教育は、学びを通じて人と人の「かかわり」「つながり」をつくり、関係性を耕す。
- 学びによって人がつながり、地域コミュニティが生まれる。
- 地域課題を自分たちの問題として考え、行動する住民自治を支える基盤となる。

5. 今後のスケジュールとブラッシュアップ

元資料：P36

1. **総合教育会議での議論**
   論点1・2の仮説を精査
2. **市民参画**
   アンケート調査・ワークショップ（予定）・パブリックコメント等を通じて意見を把握
3. **仮説のブラッシュアップ**
   皆さまの意見を参考に、目指す姿をさらに整理
4. **今後の検討**
   論点3（How）や公民館・図書館・文化芸術・文化財など各論を検討

**今後は論点3「どのように目指す姿を実現していくか」について、
公民館等の各論を題材として扱いながら検討していきます。**